

1 6月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年6月	令和7年6月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	37件	26件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	16件	7件
◆四類感染症 ・デング熱 ・レジオネラ症	1件 3件	0件 7件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・アメーバ赤痢 ・ウイルス性肝炎 ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） ・侵襲性インフルエンザ菌感染症 ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・水痘（入院例に限る） ・多剤耐性緑膿菌感染症 ・梅毒 ・播種性クリプトコックス症 ・百日咳	2件 1件 4件 1件 3件 1件 3件 1件 1件 1件 64件 1件 7件	1件 0件 1件 1件 3件 4件 3件 1件 — 33件 0件 116件
◆五類感染症（定点把握疾病：第23週～第26週（6月1日～6月28日分）） ・報告数上位の疾病は①感染性胃腸炎（462件：前月比0.93倍）、②手足口病（149件：前月比8.28倍）、③A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（129件：前月比0.86倍）の状況です。現状では、手足口病に続き、ヘルパンギーナについても増加の様子です。これら、夏かぜの増加が目立ってきています。		

2 トピックス

《腸管出血性大腸菌感染症》

腸管出血性大腸菌感染症は出血を伴う腸炎で、血清型によってO157、O26、O111などに分類されます。感染すると潜伏期間（平均3～5日）を経過した後に、大腸菌が産生するペロ毒素により、主に腹痛、水様性下痢及び血便を引き起こします。また、重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS）を併発した場合は、慢性的な腎障害を引き起こされ治療が必要な事例もあります。

主な感染経路は、菌に汚染された食品等を食べた場合（加熱不足など）のほか、患者の便や菌の付いたものに触れた後、手洗いを十分に行わなかった場合などに、ヒトからヒトへ感染させることがありますので、次のことに注意してください。

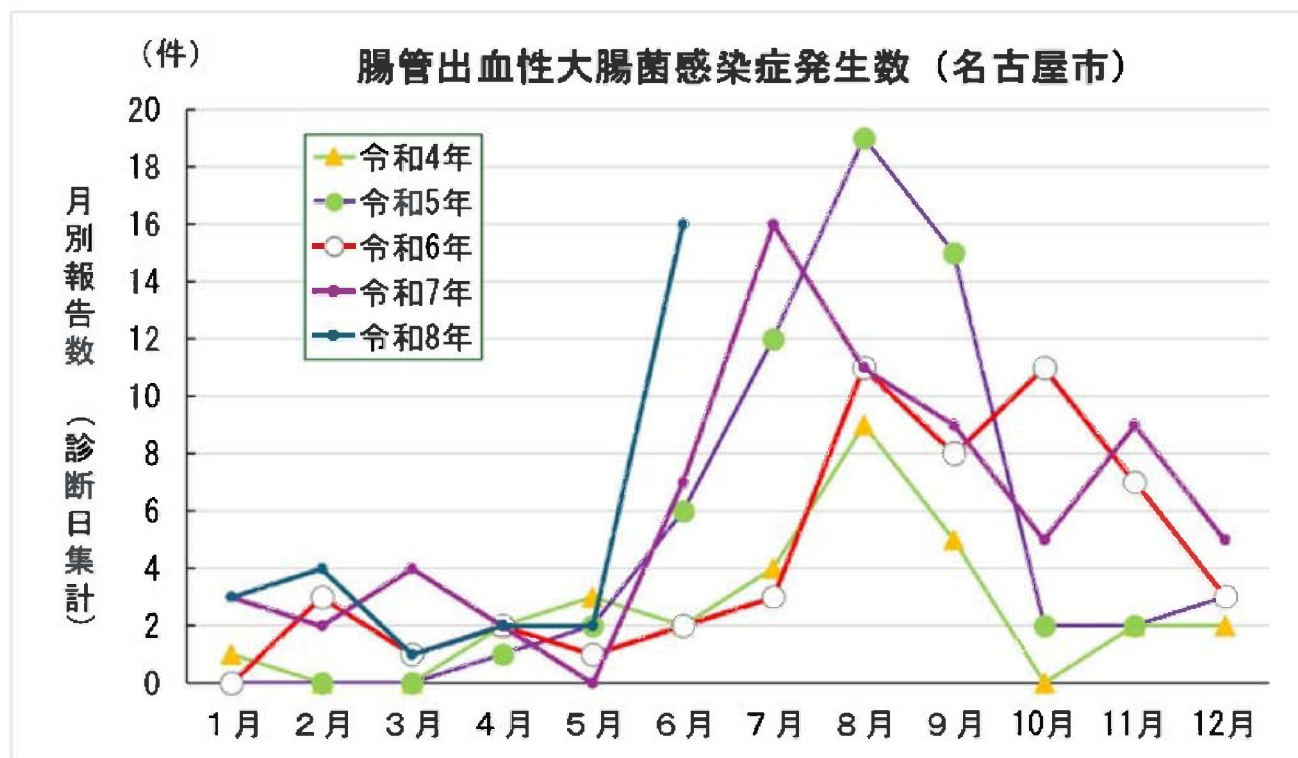
＜予防するには＞

- ・お肉の生食は避け、中心部まで十分に加熱（75℃で1分間以上）して食べてください。
- ・生野菜などはよく洗い、必要に応じて殺菌をしてください。
- ・調理器具は食材ごとに使い分け、よく洗い、熱湯などで消毒してください。
- ・調理前、食事前、トイレ後、おむつ替えの後には、石鹸等で十分に手を洗ってください。
- ・トイレのドアノブなど菌に汚染されやすい場所は、こまめに消毒をしてください。

＜早めの治療を＞

- ・自分の判断で薬を飲んだりせず、すぐに医師の診察を受けてください。
- ・特に子どもや高齢者の健康状態には、日頃から気をつけてください。

例年、年間を通した発生が見られます。現在の状況から今後の発生にも注意が必要です。



3 病原体分離情報（令和 8 年 6 月分）

1. 令和 8 年 4 月 28 日発症、令和 8 年 4 月 28 日に市内医療機関を受診し、高 CRP 血症を伴う、千種区在住、0 歳 2 か月、男児の検体（便：4 月 28 日採取、尿：4 月 28 日採取）から、乳幼児に激しい嘔吐、水様性下痢を伴う胃腸炎を起こすことが知られている A 群ロタウイルス G6 型（RVA-G6 ワクチン株） を遺伝子検査法により検出・同定しました。
2. 令和 8 年 4 月 26 日発症、市内医療機関を受診し、ノロウイルス性腸炎と診断された、西区在住、2 歳、男児の検体（血清：4 月 27 日、尿：4 月 29 日、咽頭ぬぐい液：4 月 30 日、便：4 月 30 日、腹水：4 月 30 日採取）から、ヒトに下痢症を引き起こす代表的な原因ウイルスである ノロウイルス GII.4 シドニー株（NVGII.4sydney） を遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和 8 年 5 月 2 日発症、市内医療機関を受診し、感染性胃腸炎と診断された、千種区在住、1 歳、男児の検体（便：5 月 20 日採取）から、乳幼児から子供に上気道炎（急性熱性咽頭炎など）や胃腸炎を引き起こすことが知られている アデノウイルス 2 型（AdV-2） を細胞培養法で分離同定しました。また、同一検体から、一般に鼻かぜを起こすことが知られている ヒトライノウイルス A 群（HRV-A） を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 令和 8 年 5 月 31 日発症、市内医療機関を受診し、不明熱と診断された、住所不詳、4 歳、男児の検体（咽頭ぬぐい液：採取日不明）から、感染すると主に咽頭炎や扁桃炎など急性呼吸器疾患を引き起こすことが知られている ヒトアデノウイルス 5 型（AdV-5） を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

4 ARI サーベイランス実施状況

2026. 6. 3～2026. 6. 25 受付分（被検者 計 37 名）

	合計
AdV	4
HRV/EV	14
HPIV3	4
RSV-A	1
RSV-B	2
hMPV	5
HCoV-C43	1
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	1
<i>Chlamydia pneumoniae</i>	1
計	33

＊同一患者での重複感染例あり

AdV:アデノウイルス, HRV/EV:ヒトライノウイルスまたはエンテロウイルス, HPIV:ヒトパラインフルエンザウイルス,
RSV:RSウイルス, hMPV:ヒトメタニューモウイルス

HCoV:ヒトコロナウイルス, *Mycoplasma pneumoniae*:肺炎マイコプラズマ, *Chlamydia pneumoniae*:肺炎クラミジア

ARI サーベイランスの病原体検出・同定は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

5 医療機関からの百日咳菌（菌株）薬剤耐性検査依頼

市内医療機関より、患者より分離した百日咳菌（菌株）の薬剤耐性調査の依頼はありませんでした。

百日咳菌株に関する薬剤耐性遺伝子検査は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和8年 第23週～第26週（令和8年6月1日～令和8年6月28日）

	*小児科・急性呼吸器感染症定点報告 (50医療機関)												眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)								合 計
	インフルエンザ (インフルエンザ及び 新型インフルエ ンザ等感染症を除く)	新型コロナウイルス感染症※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手 足 口 病	伝染性紅斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性呼吸器感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに 限る)	インフルエンザによる入院患者	新型コロナウイルス感染症※ による入院患者	
千種	1	－	－	7	13	44	2	29	1	1	3	－	502	0	2								605
東	－	5	－	2	10	1	4	4	－	－	5	－	807										838
北	2	3	－	－	1	16	1	1	－	3	2	－	856	0	0	0	0	6	0	0	0	0	891
西	－	6	2	8	26	54	14	39	1	6	8	－	1,967	0	0								2,131
中村	1	1	6	－	7	39	1	－	－	1	1	－	260	0	0								317
中	－	－	－	－	－	28	3	2	－	1	－	－	124										158
昭和	1	7	－	－	－	14	－	－	－	－	2	－	64	0	0	0	1	6	0	0	0	0	95
瑞穂	－	2	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	47	0	0								51
熱田	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	106	0	0								107
中川	3	10	14	7	18	38	7	27	－	2	50	－	934			0	0	8	0	0	0	0	1,118
港	－	8	－	－	16	16	1	2	－	1	1	－	202										247
南	1	3	1	－	1	16	－	5	－	3	－	－	891	0	0								921
守山	－	3	－	－	3	30	－	32	－	1	－	－	745										814
緑	1	1	2	1	11	121	3	－	1	7	－	1	588	0	0								737
名東	－	22	－	1	23	34	4	7	－	2	2	－	827	0	1								923
天白	－	2	1	1	－	11	2	1	－	－	2	－	298	0	1								319
合計	10	73	26	29	129	462	42	149	3	28	77	1	9,218	0	4	0	1	20	0	0	0	0	10,272
前月	22	35	14	38	150	499	50	18	2	23	17	2	8,538	0	6	1	1	7	0	2	0	1	9,426
前月比	0.45	2.09	1.86	0.76	0.86	0.93	0.84	8.28	1.50	1.22	4.53	0.50	1.08	－	0.67	0.00	1.00	2.86	－	0.00	－	0.00	1.09
昨年同月	25	272	14	100	191	514	27	21	197	25	34	6	11,570	0	17	1	0	8	0	1	0	14	13,037

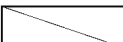
* 2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数が増加されました。

※ 病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報）令和8年6月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)		合 計
	性感 染症	性器 クラ ミジ ア	性器 ヘル ス感 染症	尖圭 コン ジロ ーマ	淋菌 感染 症	黄色 ブシ ドリン 球耐 菌性	肺炎 球菌 感染 症耐 菌性
千種	5	0	0	0			5
東							
北	21	9	6	8	2	0	46
西	1	4	0	0			5
中村	4	0	0	3			7
中	39	40	20	16			115
昭和	9	7	2	2	2	0	22
瑞穂	0	0	0	0			0
熱田							
中川	0	0	0	0	2	0	2
港							
南	0	0	0	0			0
守山	0	5	0	0			5
緑	7	0	1	0			8
名東	2	3	0	0			5
天白	4	2	3	3			12
合計	92	70	32	32	6	0	232
前月	86	52	30	37	7	0	212
前月比	1.07	1.35	1.07	0.86	0.86	-	1.09
昨年同月	138	79	46	44	17	0	324

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

*薬剤耐性緑膿菌の感染症基幹定点報告は、R8.4月6日まで。
4月7日からは全数報告の対象疾病に変更されました。

5月分患者報告数	
週報分	10,272
月報分	232
合 計	10,504

令和8年 6 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和8年 6 月 患 者 数	令和8年計 患 者 数	令和7年計 患 者 数	令和6年計 患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SA RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ (H5N1)	-	-	-	-
三類感染症	鳥インフルエンザ (H7N9)	-	-	-	-
	コレラ	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	16 (1)	28 (6)	73 (17)	52 (15)
	腸チフス	-	1	-	-
	パラチフス	-	-	-	1
	合 計	16 (1)	29 (6)	73 (17)	53 (15)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和8年 6 月 患 者 数	令和8年計 患 者 数	令和7年計 患 者 数	令和6年計 患 者 数
O157	10 (1)	15 (2)	50 (5)	31 (6)
O26	3	3	3	5 (3)
O103	1	2 (1)	5 (4)	5 (1)
O111	2	2	2 (1)	2
O165	-	-	-	1
その他	-	3 (2)	3 (1)	2 (1)
型 不 明	-	3 (1)	10 (6)	6 (4)
合 計	16 (1)	28 (6)	73 (17)	52 (15)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

6月

保健セン ター名	令和8年6月（※）			令和8年計（※）			令和7年計（※）			令和6年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	1	0	0	12	5	3	17	6	5	19	7	2
東	1	0	1	6	1	2	10	3	4	9	5	2
北	1	1	2	10	2	6	14	8	2	21	9	6
西	0	0	1	9	1	3	13	5	2	9	3	10
中村	0	0	1	15	3	10	19	5	13	22	2	7
中	0	0	2	9	1	10	18	8	17	17	7	6
昭和	0	0	2	4	1	6	11	3	7	18	5	2
瑞穂	0	0	0	5	0	2	9	2	0	8	2	2
熱田	0	0	1	2	0	3	6	1	4	10	2	3
中川	1	1	0	17	5	11	35	7	16	27	13	19
港	5	0	1	17	5	5	19	4	7	20	5	7
南	4	0	0	17	6	0	20	9	3	16	5	9
守山	3	2	2	14	3	4	18	1	2	26	11	5
緑	1	0	2	19	7	6	27	4	9	18	5	9
名東	2	0	2	6	3	4	12	6	4	10	4	4
天白	0	0	1	8	1	6	5	1	5	13	5	5
全市	19	4	18	170	44	81	253	73	100	263	90	98

※令和7・8年の数値は速報値です。

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年6月		令和8年計	令和7年計	令和6年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	-		2	5	4
A型肝炎	-		2	3	1
エムボックス	-		-	-	1
ジカウイルス感染症	-		-	-	3
チクングニア熱	-		-	1	1
つつが虫病	-		-	-	1
デング熱	1		4	-	4
日本紅斑熱	-		-	5	3
マラリア	-		1	2	1
レジオネラ症	3		18	58	48
レプトスピラ症	-		-	1	-
合 計	4		27	75	67

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（25疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年6月		令和8年計	令和7年計	令和6年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	2		10	8	20
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	1	B型: 1 - -	- 1 - -	B型: 3 - -	- - その他: 1
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4		13	36	65
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	-		-	-	1
急性脳炎※	-		3	5	15
クロイツフェルト・ヤコブ病	-		-	3	-
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		16	29	46
後天性免疫不全症候群	3	無症候性キャリア: 3 - -	無症候性キャリア: 17 AIDS 4 -	無症候性キャリア: 27 AIDS: 8 その他: 2	無症候性キャリア: 39 AIDS: 17 その他: 1
ジアルジア症	-		- 1	-	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		5	27	16
侵襲性髄膜炎菌感染症	-		- 1	3	-
侵襲性肺炎球菌感染症	3		41	83	82
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	1		8	17	9
多剤耐性緑膿菌感染症	1		2		
梅毒	64	早期顕症梅毒: 48 - - 無症候梅毒: 14	早期顕症梅毒: 203 晩期顕症梅毒: 4 先天梅毒: 1 無症候梅毒: 60	早期顕症梅毒: 379 晩期顕症梅毒: 6 - 無症候梅毒: 165	早期顕症梅毒: 315 晩期顕症梅毒: 9 - 無症候梅毒: 143
播種性クリプトコックス症	1		1	3	1
破傷風	-		-	2	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-		-	-	1
百日咳	7		55	962	35
麻しん	-		5	6	2
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-		-	1	-
合 計	89		451	1,775	819

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 25疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 (5 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こし得る感染症
四類感染症 (44 疾病)	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 (全数：25 疾病) (定点：26 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 (4 疾病)	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

(令和 8 年 6 月 3 0 日時点)